

(参考)

## 心肺蘇生法(小児・乳児)

### 心肺蘇生法の手順

小児などに対する心肺蘇生法のやり方は成人の場合とは少し異なります

	乳児(注1)	小児	8歳以上の子供(注2)
年齢区分	1歳未満	1歳以上8歳未満	8歳以上の子供
反応を確認する	呼びかけを実施し、軽く肩を叩き反応を調べる(大人と同じ) 乳児にあつては、呼びかけとともに足裏をたたいて刺激することも有効		
助けを呼ぶ	救助者が2人以上いる場合は、1人が119番通報及び傷病者が1歳以上の場合はAEDの手配をし、もう1人が心肺蘇生法を実施する(1歳未満の場合、AEDは使用できません) 一人だけの場合は、最初に心肺蘇生法(気道の確保、人工呼吸、胸骨圧迫)を2分間実施し、その後119番通報及びAEDの手配をする。そしてまた戻って心肺蘇生法を続ける		
気道の確保	片手を額に当て、もう一方の手の人指し指と中指の2本をあご先(骨のある硬い部分)に当て、あご先を持ち上げ、頭を後ろにのけぞらせて気道を確保する(成人と同じ)		
呼吸を調べる	頬を口・鼻に寄せて、正常な(普段どおりの)呼吸をしているか、10秒以内に調べる 正常な(普段どおりの)呼吸が感じられるならば、回復体位(横向きに寝かせる)にする		

**呼吸が感じられないか、正常でない場合には、直ちに人工呼吸と胸骨圧迫を開始すること**

注1 救急蘇生法の改訂により、一般市民が心肺蘇生をおこなう場合、新生児は乳児に含めることになりました

注2 8歳以上の子供については、成人と同じに扱います

### 心肺蘇生法の実施

胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせが心肺蘇生法です(最初に人工呼吸を2回、続いて胸部圧迫を30回)  
救急隊が到着するまで、又は傷病者が動き出すか、うめき声を出すあるいは正常な呼吸を回復するまで続けます

対象	胸骨圧迫と人工呼吸の比率	1回の組み合わせ	
		胸骨圧迫	人工呼吸
小児 (1歳以上~8歳未満)	30:2	約100回/分の速さで	吹き込みに1秒かけて
乳児 (1歳未満)		30回	2回

心肺蘇生は絶え間なく継続することが重要であるため、救助者が2人以上いる場合は2分間(5サイクル)程度を目安に交替して続けます(交替による中断時間は極力短くすることが重要です)

注:従来の「心臓マッサージ」という言葉が「胸骨圧迫」に変わりました

# 人工呼吸

対象	方法	吹き込む時間と回数	吹き込む量
小児 (1歳以上~8歳未満)	口対口人工呼吸	吹き込みに1秒かけて2回	胸が軽く膨らむ程度 (胸が上がるのが見てわかる程度)
乳児 (1歳未満)	口対口鼻人工呼吸 又は口対口人工呼吸		



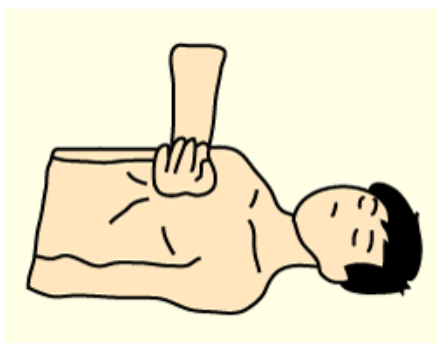
口対口人工呼吸



口対口鼻人工呼吸

# 胸骨圧迫

対象	圧迫の部位	圧迫の方法	圧迫の深さと回数	圧迫のテンポ
小児 (1歳以上~8歳未満)	胸の真ん中 (両乳首を結ぶ線の真ん中)	両手又は片手で	胸の厚さのおおよそ1/3くぼむまで 連続30回	約100回/分
乳児 (1歳未満)	乳首を結ぶ線より少しだけ 足側	中指・薬指の2本で		



小児



乳児・新生児



## 参考文献

救急蘇生法の指針(市民用・解説編) 監修: 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 へるす出版